

職員による本の紹介特集

可見市立図書館本館が、現在の建物で開館したのは、1985（昭和 60）年 1 月です。それから 30 年が経過しました。

図書館本館の現在の所蔵数はおよそ 18 万冊。中には開館当時からあり、書庫に保存している本もあります。そこで今回は、「1980 年代の本」をピックアップしてご紹介します。

懐かしい一方で、古さを感じさせない内容の本もたくさんありますよ。



あの頃の私は…
そしてあなたは…？
当時を思い出す！

1980年代の本



『サラダ記念日』（1987 年）

俵万智／著（河出書房新社）911 夕

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日——歌集としては異例の 280 万部を売り上げ話題沸騰。当時 24 歳の著者が巻き起こしたセンセーションは、記憶に強く残っています。1980 年代はコピーライターブームと重なり、新鮮なことばが世間の脚光を集めた時代。俵万智は生活感のある若者ことばを使いながら、古典的な調べや情緒も感じさせる歌を詠み、短歌に関心のない人や同世代の若者から、熱い共感を得ました。

（帷子分館 熊崎）

『ナポレオン狂』（1979 年）

阿刀田高／著（講談社）913 ア

今でいうところのマニアと呼ばれる人々を昔は〇〇狂と言ったものです。狂気漂うほどに物事に執心する人々。この物語でもナポレオン狂といえる収集家が登場します。ある時、自分はナポレオンの生まれ変わりだと言う男が訪ねてきて…。ユーモアと風刺の効いた、それでいて読み終わると背筋がぞくぞくとするショートストーリーの連続。1980 年代、元気でありながら世紀末前の漠然とした不安があった時代に相応しいお話をどうぞ。

（帷子分館 濱口）

『窓ぎわのトットちゃん』（1981 年）

黒柳徹子／著（講談社）914 ク

戦後最大のベストセラーと称される本書、ご存じの方も多いと思います。この本が出版された 1980 年代は教育現場が荒れていた時代でした。今なら「悪い子」とレッテルを貼られ、教師から煙たがれる存在だったに違いないトットちゃんに、「君は、本当はいい子なんだよ。」と言い続け、大きな自信を与えたトモエ学園の小林先生。子どもを一人の人間として尊重する先生の教育理論は、子どもと接するすべての大人にとって、今なお見習うべき点があります。

（帷子分館 磯道）

『魔女の宅急便』（1985 年）

角野栄子／作（福音館書店）児童 913 カ

13 歳になった満月の夜、黒猫のジジを相棒に親元から離れ、ほうきで空に飛び立った魔女のキキ。彼女は、海辺の町で宅急便屋さんを開くこととなります。この本を読んだ当時、私はキキよりも年下でした。自分がやがて 13 歳になった時、キキのような状況になったとしたらと想像し、キキって勇気があるな。と感じたことを覚えています。ジブリで映画化された作品なので、ご記憶にある方も多いのではないのでしょうか。今の子どもたちにもぜひ読んでもらいたい本です。

（本館 篠田）

『蕎麦ときしめん』 (1986年)

清水義範／著 (講談社) 913シ

1980年代、ある番組から「エビフリヤー」とかみやあみやあ猫のような話し方など名古屋人・名古屋弁が一躍話題となりました。この作品は、“一東京人から見た名古屋人論”を読んだ作者がぜひ多くの人に知ってもらいたく公開したという形になっています。地下街・中日ドラゴンズ・車などのエピソードと会話(もちろん名古屋弁)。作者は生粋の名古屋人、その反論と後日談も愉快です。

(本館 林)

『イルカの恋、カンガルーの友情』(1987年)

景山民夫／著 (角川書店) 914カ

バブルに踊った80年代は、サブカルチャーの時代でもありました。20代から放送作家として活躍していた景山民夫のエッセイは、海外でのイルカやラッコとの交流、ネッシーやUFO、心霊スポット等、実に多彩。ご紹介する『イルカの恋、カンガルーの友情』も、事実には少し(たくさん?)嘘をちりばめて、抱腹絶倒話から時事ネタまで、今読んででも新鮮です。TVにも多数出演していた景山氏。若かった頃のタモリやビートたけしのお話も出てきますよ。

(帷子分館 瀬尾)

『MARIKO (マリコ)』 (1980年)

柳田邦男／著 (新潮社) 916ヤ

1941年、太平洋戦争前夜、緊迫する日米関係の中、東京の外務省とワシントンの日本大使館の間で、『マリコ』という暗号が日本の交渉方針や提案に対する《米側態度》をあらわす意味で使われた。

『マリコ』とは、当時9才の寺崎マリ子のことで、父は駐米外交官の日本人で、母はアメリカ人、父方の伯父は外務省アメリカ局長だった。日米が戦争状態になるとマリ子一家は難しい立場に立たされる。

現在、多方面で活躍する著者の初期の作品で、綿密な調査に基づいている。

(本館 可児)

『1980アイコ十六歳』 (1981年)

堀田あけみ／著 (河出書房新社) 913ホ

文藝賞を最年少で受賞。現役高校生が書いた等身大の青春小説です。ドラマ、映画、アニメ化にもされた話題作でした。

弓道部に所属する16歳の高校生・三田アイコ。名古屋を舞台に、夏から冬までの学園生活をリアルにユーモラスに書かれています。

(本館 溝口)

『ちいさいモモちゃん』 (1980年)

松谷みよ子／作 (講談社) 児童 913マ

小学生だった私が、夢中で読んだシリーズの第1巻。働くママを持つモモちゃんが、生まれてから3歳になるまでのお話です。モモちゃんの誕生お祝いにガムやソフトクリームが訪ねてきたり、ママが残業で遅くなっておこったモモちゃんが雲の上に行ってしまう…。母親になった今読み返すと、子どもの時には気づかなかった「想い」に胸が熱くなることも。子どもにも大人にもおすすめしたい本です。

(桜ヶ丘分館 角)

『気くぼりのすすめ』 (1982年)

鈴木健二／著 (講談社) 385ス

丸い顔に黒縁メガネのNHKアナウンサー(当時)が書いた、ベストセラー本です。挨拶ができること、話を聞くことなど、日常生活の基本的な思いやりの技術を修得することの大切さが書かれた本ですが、私が一番、心に残っているのは、「父が死ぬ直前の四十分間に、自らの死を私にみせてくれることによって、最大の教育を私に与えてくれた。それで十分であった。私はたしかに父親を持ったのである。」と語っている部分です。新刊『気くぼりのすすめ、三十四年目 どっこい、まだ生きております』と併せて読んでみてはいかがでしょうか。

(桜ヶ丘分館 松浦)

『なんとなく、クリスタル』 (1981年)

田中康夫／著 (河出書房新社) 913タ

女子大生でモデルの主人公、由利の東京での生活を描いたこの作品は、1980年に発表され、その後『クリスタル族』という言葉が生まれるほど、大流行しました。ディスコ、アルファ・キュービック、ポパイ、クール&ザ・ギャング…音楽やファッション、文化など、1980年代を象徴するものが、たくさん描かれています。

2016年の今、この小説を読んで、当時の雰囲気味わうのも、おもしろいのではないのでしょうか。

続編に『33年後のなんとなく、クリスタル』もあります。
(帷子分館 多賀)

『ゲームの達人 上・下』 (1988年)

シドニイ・シェルダン／著 天馬竜行、中山和郎／訳
(アカデミー出版サービス) 933シ

シドニイ・シェルダンの世界的なベストセラーとなった作品です。この本をきっかけに、次々と著者の作品を読みました。物語は、一人の青年がダイヤモンド採掘の野望を持ち、一攫千金を狙う冒険劇から始まります。1880年代から1980年代の100年に及ぶ、親子4代の壮大なストーリーです。スピーディな展開に思わず引き込まれて、一気に読み進めてしまいます。

(帷子分館 東)

『はれときどきぶた』 (1980年)

矢玉四郎／著 (岩崎書店) 児童 913ヤ

日記を盗み見る母親をびっくりさせようと、日記に明日の出来事を書き始めたものの、そのメチャクチャな内容がどんどん実現し、自分がぎゃふんとなってしまった少年・のりやす君のお話。ほのぼのとした世界観の中で繰り広げられる奇想天外な物語と、いかにも子どもらしい出鱈目な発想による日記は、大人になって読んでみても、おもしろおかしく感じられると思います。

(本館 多賀)

『ノルウェイの森 上・下』 (1987年)

村上春樹／著 (講談社) 913ム

日本を代表する村上春樹の長編小説で、当時は大流行しました。題名はビートルズの楽曲名から取られています。家にこの本があったため何となく手に取って読んだのですが、当時の私から見た大人の恋愛の重さと深さに衝撃を受けた1作です。

主人公「わたなべ」＝「僕」が自殺した友人「キズキ」の恋人「直子」と、大学の同窓生「緑」、2人の女性の関わりの中で揺れ動き“生と死”について考えながら成長していく…。青春のものがきを描いた村上さん曰く「100パーセントの恋愛小説」です。

(桜ヶ丘分館 小島)

『敦煌』 (新潮文庫版・1988年)

井上靖／著 (新潮社) 913イ

※初版1959年

1988年に公開され、翌年日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した映画の原作となった作品。

11世紀、中国は宋の時代。官吏任用試験に失敗し、絶望の淵にあった趙行徳は未知の文字と出会う。文字に惹かれ、西辺の国「西夏」に向かった行徳が見たものは…。戦いに蹂躪されて滅びゆく都市の姿に悠久の歴史を感じ、戦火から経典を守ろうとする僧と行徳の姿に、歴史を学ぶ学生として共感したことを思い出します。敦煌莫高窟で発見された経典から紡ぎ出された壮大な歴史物語は、今も歴史の哀愁と浪漫を抱かせてくれます。

(桜ヶ丘分館 福井)

『ノルウェイの森 上・下』 (1987年)

村上春樹／著 (講談社) 913ム

出版する本が空前の話題となる作家、村上春樹をベストセラー作家にしたこの小説が出版されたのが1987年でした。『ノルウェイの森』は上下430万部を売る大ベストセラーとなり、これをきっかけに村上春樹ブームが起きます。現在発行部数は1000万部越え2010年には映画化もされました。学生運動の時代を背景として、主人公「僕」と、自殺した友人の恋人「直子」を軸に、さまざまな思春期の葛藤や人間模様、恋愛、そして「喪失感」を描いた作品です。

(本館 樋山)

『蒼い時』 (1980年)

山口百恵／著 (集英社) 767ヤ

歌手として女優として人気絶頂にあった著者は、結婚を機に21才でスッと芸能界から引退しました。その潔さは世間を驚かせ、30年以上経った今は「伝説の人」になりました。引退と同時に出版されたこの自伝は、当時、大ベストセラーになり、最後の一行「幸せになります。」を貫き通しているのは、お見事です。

(本館 饒村)

『コインロッカー・ベイビーズ 上・下』

(1980年) 村上龍／著 (講談社) 913ム

当時実際にあったという「コインロッカーに置き去りにされた赤ん坊」の事件をもとに描かれた小説です。その赤ん坊二人は九州の炭鉱島に住む夫婦の養子になり、やがて東京に移り住みますが、常に「本当の母親探し」の呪縛から逃れられません。

日本の一歩先の未来を描いているような不思議さがあると同時に、現代が失ってしまったエネルギーの躍動感のようなものを感じます。80年代を知らない世代にもお勧めです。 (本館 長谷川)

『ディズニー (火の鳥伝記文庫)』

(1987年) 三浦清史／著 (講談社) 児童778デ

私が社会人になって初めての慰安旅行が憧れの地ということで、1983年—東京ディズニーランド開園は忘れられない出来事のひとつです。

どんな苦境にもあきらめないウォルトと一番の理解者である兄のロイが、どんな人生を歩み、ディズニーランドを作ったかを知れば、皆さんのディズニー愛が増すこと間違いのないと思います。児童書なので読みやすいです。

他に、娘のダイアン著『私のパパ ウォルト・ディズニー』(講談社)も所蔵していますので、ぜひ違う角度からもディズニーを読んでみてください。

(本館 土谷)

『しゅっぱつしんこう!』 (1984年)

山本忠敬／作 (福音館書店) 絵本E/シ

番外編。作者の山本忠敬さんは乗り物絵本の大家です。表紙を飾る列車の名は「はつかり」…そう、それは、今はなき上野～青森間の特急列車、しかも国鉄時代の車両の絵なのです。

実はJR時代の子どもたちにも大人気で、脈々と受け継がれているのですよ。 (本館 長谷川)

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
出版、宗教			
023.0/コ/	花森さん、しずこさん、そして暮しの手帖編集部 『暮しの手帖』天才編集部の花森安治と、猪突猛進な社長・大橋鎮子と、雑誌作りに明け暮れた日々。連続テレビ小説「とと姉ちゃん」のモチーフ2人との思い出を、花森の愛弟子がはじめて綴った涙と笑いのうちあけ記。	小樽雅章／著	暮しの手帖社
185.7/ム/	お坊さんのひみつ お坊さんの年収は？税務署との上手な付き合い方は？お坊さんになる方法と修行生活の実態は？通夜や葬儀以外の時間は何をしています？「現役の僧侶」がリアルなお寺事情を本音で語ります。	村越英裕／著	PHP エディターズ・グループ
歴史・地理			
289.1/オ/	変える 「失われた20年」に生まれ、育ってしまった、新世代の旗手による怒りと祈り。2015年、学生団体SEALDsを仲間たちと始めた著者が、自分の人生の中で出会ったものや考えてきたこと、その変化を綴る。	奥田愛基／著	河出書房新社
289.3/ア/1	アントニウスとクレオパトラ 上・下 カエサルがアントニウスに期待したのは、軍人としての才能ではなかった。古代ローマ共和政期の軍人として名高いマルクス・アントニウスと、その恋人でエジプトの女王クレオパトラの評伝。	エイトリアン・ゴールズワージー／著	白水社

- 517.5/ミ/ **水屋・水塚** LIXIL 出版
中部の木曾三川、関東の利根川や荒川、四国の吉野川流域などの洪水多発地域に見られる身を守るための 10 種類の建築構造物類を、写真と代々受け継ぐ持ち主の声とともに紹介する。
- 588.0/イ/ **産廃 G メンが見た食品廃棄の裏側** 石渡正佳／著 日経 BP 社
食品が大量に廃棄され、その一部が不法業者によって消費者の口に入るような事態をどう防いだらいいのか。カレーハウス CoCo 壺番屋の廃棄冷凍カツ流出事件から見えてくる深刻な日本の「食」の問題に、産廃 G メンが斬り込む。

芸術・スポーツ

- 751.4/カ/ **にっぽんのかawaii タイル 昭和レトロ・モザイクタイル篇** 加藤郁美／著 国書刊行会
おばあちゃんの家、銭湯、映画館…。昭和を彩ったなつかしいタイルの 8 割が、岐阜県多治見市笠原町で作られていた。色とりどりのタイルを生み出した笠原町と、いまも笠原タイルを貼った建物が残る全国の街町を訪ねる。
- 767.8/ピ/ **愛の讃歌** 加藤登紀子／著 東京ニュース通信社
フランスの国民的歌手、エディット・ピアフ生誕から 100 年。ピアフを敬愛してやまない歌手の加藤登紀子が、いまだに謎の部分も多いピアフの生涯を辿る。
- 783.7/ナ/ **高校野球の経済学** 中島隆信／著 東洋経済新報社
超人気コンテンツ・高校野球には、「仕掛け」があった！野球という競技の特性、審判の役割、沖繩…。野球伝来からの歴史をたどりながら、大人たちがどのように甲子園という装置を演出してきたのかを分析する。
- 785.2/イ/ **井村雅代 不屈の魂** 川名紀美／著 河出書房新社
「売国奴」と呼ばれた中国代表コーチ就任を経て再び日本代表コーチに復帰、そしてリオ五輪へ。勝負だけではなく、人を育て心を育て続けた「シンクロナイズドスイミングの母」の挑戦の軌跡を綴る。
- 789/フ/ **Dr.F の格闘技医学** 二重作拓也／著 秀和システム
格闘技の一流選手の技や動きの秘密を、医学・科学の視点から徹底分析するほか、KO を生むために必要な医学知識と人間の身体の原理を研究。さらに、格闘技が内包するリスクを減じる選手生命向上について考察する。

日本文学ー小説

- 913.6/アサ/ **帰郷** 浅田次郎／著 集英社
もう二度と帰れない、遠きふるさと。「あの戦争」によって引き裂かれた男たちの運命とは。昭和を生きる市民の目線から描く、6篇の戦争小説集。
- 913.6/イケ/ **陸王** 池井戸潤／著 集英社
老舗足袋業者「こはぜ屋」の四代目社長は、会社存続のために足袋製造の技術を生かしたランニングシューズの開発を思い立つ。従業員 20 名の地方零細企業が一世一代の大勝負に打って出る！
- 913.6/サク/ **裸の華** 桜木紫乃／著 集英社
舞台上の怪我で引退を決意した、元ストリッパーのノリカは、故郷で店を開くことに。ダンサーを募集すると、2人の若い女性が現れて…。踊り子たちの鮮烈な生き様を描く。
- 913.6/シヨ/ **ストレンジャー・イン・パラダイス** 小路幸也／著 中央公論新社
名物も娯楽もない限界集落(晴太多)。そんな故郷を再生するため、町役場で働く土方あゆみは、移住希望者を募集する。やってきたのは、なんだかワケありなはぐれ者たち。彼らの過去も心の傷も、優しい笑顔が包み込む…。
- 913.6/ナカ/ **私の消滅** 中村文則／著 文藝春秋
重度の鬱病にかかった女性を愛した精神科医。彼女を死なせないために施した治療は、記憶障害を引き起こす危険を伴うものだった…。「悪意」が世の中に及ぼす影響を突き詰めた衝撃作。
- 913.6/ハス/ **伯爵夫人** 蓮實重彦／著 新潮社
おそるべき戦場は寝台の上にある。エロスとスリルの往還で深さを増す物語。東大元総長が意を決して書き上げた、衝撃の長篇小説。

913.6/ハハ/	受難	帯木蓬生／著	KADOKAWA
	韓国・珍島沖で起きた大型フェリー沈没事故と、別の事故で溺死しiPS細胞で蘇生された少女。ふたつの事象をつなぐ真実と、闇に隠された国家陰謀とは。		
913.6/ハヤ/	中島ハルコはまだ懲りてない!	林真理子／著	文藝春秋
	美魔女とたたかったり、五十女を脱がせたり…。日本一あつかましい女社長、中島ハルコがパワーアップして帰ってきた！読むとためになる、元気になる、超実用的恋愛小説第2弾。		
913.6/ミヤ/	希望荘	宮部みゆき／著	小学館
	家族と仕事を失った杉村三郎は、東京都北区に私立探偵事務所を開業した。ある日、亡き父が残した「人を殺した」という告白を調査してほしいとの依頼があり…。表題作ほか全4編を収録。		
913.6/ミヤ/	長流の畔(ほとり)	宮本輝／著	新潮社
	昭和38年。66歳の松坂熊吾は金策に窮していた。社員に会社の運転資金のほとんどを横領されたのだ。そのことは同業者にも漏れ伝わり…。戦後の時代相を背景に父と子を描く「流転の海」第8部。		
913.6/ヤク/	ラストナイト	薬丸岳／著	実業之日本社
	菊池正弘が営む居酒屋に現れた片桐達夫は、この店で傷害事件を起こしてから、32年もの間に何度も犯罪に手を染めてきた。なぜ彼は罪を重ねるのか。彼が犯した最後の罪とは…。		
913.6/ヤマ/	珠玉の短編	山田詠美／著	講談社
	凄惨でおどろおどろしい作風で知られた女性作家が、自分の最新作に「珠玉の短編」という惹句を付けられたことに激しい苛立ちを覚え…。表題作をはじめ全11編を収録。		

外国文学

963/イ/	アウシュヴィッツの図書係	アントニオ・G・イトゥルベ／著	集英社
	アウシュヴィッツ強制収容所に、囚人たちによってひっそりと作られた秘密の図書館。本の所持が禁じられているなか、図書係をつとめる14歳の少女デイタは、命がけで本を隠し持ち…。実話に基づく物語。		
956/レ/	ぼくは君たちを憎まないことにした	アントワーヌ・レリス／著	ポプラ社
	パリ同時多発テロ事件で最愛の妻を失った著者は、フェイスブック上でテロリストに「憎しみを与えない」と宣言した。事件後の2週間の日常の中に、小さな息子と共に生きる希望を綴り込んだドキュメント。		

展 示 の ご 案 内

■ 7 / 30 (土) ~ 8 / 25 (木) ■ 読み継がれる戦争文学展 (本館1階)

1945年8月15日、昭和天皇の玉音放送により、ポツダム宣言受諾・連合国への降伏が日本国民に伝えられました。文学作品に描かれた、日本の戦争を読んでみましょう。

■ 8 / 27 (土) ~ 9 / 25 (日) ■ 命を守る図書展~3万分の1の命と向き合う~ (本館1階)

日本では自殺によって多くの尊い命が失われています。自殺の多くは防ぐことができる社会的な問題です。この自殺の問題に対して、私たちひとりひとりができることは何でしょうか。自殺予防、うつ病、命の大切さに関するパネルや図書を展示します。

開館時間

【本館】平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00
8月28日(日)までは、9:30から開館します。
【分館】全日 9:00~17:00

休館日

毎週月曜日、毎月最終金曜日
(8月 1,8,15,22,26,29日)
※お盆休みはありません。おいでください。

【予告】9月26日(月)~30日(金)は、蔵書点検のため、全館休館します。

携帯用
サイト



「図書館だより」2016年8月号

発行：可児市立図書館 編集：長谷川(本館) 電話(0574)62-5120
資料検索・予約は <http://www.kani-lib.jp/> をどうぞご利用ください。